

施工方法について

輸送過程でジオメンブレンは、鋭い傷害を避けるために、ハードドラッグをドラッグしないでください。

- (1)は下から上へ伸びるべきで、きつく引っ張らないで、残りの1.50%を残すべきで、局部沈下の伸張を準備するためである。プロジェクトの実際の状況を考慮し、スロープは上から下へ敷設されます。
- (2) 隣接する2枚の縦継ぎは、水平線上ではなく、1m以上ずらすこと。
- (3)縦継ぎはダム足と曲げ足から1.50m以上離し、平面上に配置すること。
- (4) 最初のスロープは後方野底とする。
- (5) 勾配をつけるとき、フィルムの展開方向は基本的に最大勾配線と平行であるべきです。

敷き：

- (1) 地覆工事を行う前に、対応する土木の受入証明書を提出すること。
- (2) 地覆を切断する前に、関連する寸法を正確に測定し、実際の状況に応じて切断すること。一般に図に示す寸法で切断することは不適當である。
- (3) 地覆の敷設は、品質確保を前提に、溶接を極力少なくし、原料を節約する。また、品質確保が容易である。
- (4) フィルムとフィルムの接合部のラップ幅は、一般に10cm以上とし、通常、溶着の配列方向は最大傾斜と平行に、すなわち傾斜方向に沿うようにする。
- (5) 通常、コーナー部や変形部では、接合部の長さをできるだけ短くする。特別な要件に加えて、1.5メートル以内の上部斜面または応力集中領域から1:6以上の斜面では、可能な限り、溶接をしない。
- (6) 敷設のジオメンブレンは、人工的な倍を避けるために、温度が低く、滑らかな、締めにしようとする必要があります。
- (7) 地質膜は、膜への偶発的な損傷を引き起こさないように、不浸透性膜のオブジェクトに害を引き起こす可能性があり、膜上に配置したり、歩くために膜の上に運ばれるべきでないツールなどを、移動、膜表面上を歩いて最小限に抑える必要があります完了後に敷設されました。

溶接仕様

- 基礎掘削
- 湖底モルタル保護層（H20～30mm）。
- 法面切削、転圧、整地
- 複合ジオメンブレン、垂直擁壁ペースト
- 底面整地・清掃・工程引継ぎ
- 水中配管口シール止水工事
- 複合地覆の敷設と溶接
- 溶接・補修品質確認
- 完成・検収

詳しくはこちら：

